日本城郭史資料　全九冊

安房國
上總國
下總國

別20
4
9

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

34 T. 1

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館蔵書

国立国会
33.3.18
図書館

U 60336

里長

義俊	義秀	忠義

里見氏小史

新田義重長男山野国里見郷ニ住シ里見ヲ号ス 又大新田ト共ニ世々鎌倉幕府ニ仕フ

陸軍

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

里見氏小史

里見城　見城　白鷺城　稲村城　久留利城　佐賀城　岡本城　路山城　食吉城

義俊　新田義重長男上野國里見郷ニ居ル故ニ里見ノ号ヲ又大新田ト称セシ鎌倉幕府ニ仕フ

義秀

忠義

義胤

義運

盛義

家堅　結城氏朝ニ叛キ足利着王、安王ノ拳ヲ結城城ニ攻ム（結城合戦）

義実　父義堅ノ大ニ安房国白浜ニ赴リ（時ニ安房ニ東條、神餘、麻生、安西四氏蟠踞シ互ニ相攻ム）安房国ヲ平ニ麻生、安西両氏ヲ亡ボシ（安房国ヲ平ニ麻生、安西両氏ヲ亡ボス）安房国ヲ平ニ麻生、安西両氏ヲ亡ボシ（安房国ヲ平ニ麻生、安西両氏ヲ亡ボス）

成義　上總國萩生城ヲ攻陥シ遂ニ安房上總両国ヲ併セ領ス

義通　久保田城ニ居ル安房ニ入リ其子義豊（実）ヲシテ北條氏ニ戦ヒ（ヲ相模、國渡リ北條氏ニ戦ヒ）

義堯　父命ヲ以テ北條氏ニ謀ヲ含ム岩槻城主太田資政ヲ援ケントシ兵ヲ起シテ義豊ヲ殺ス

義弘　北條氏ノ運筆ヲ以テ相模三浦郡ヲ奪フ永福四年上杉氏ニ謀ヲ含ム岩槻城主太田資政ヲ援ケントシ兵ヲ起シテ義豊ヲ殺ス

義頼　父命ヲ以テ北條氏ニ謀ヲ含ム岩槻城主太田資政ヲ援ケントシ兵ヲ起シテ義豊ヲ殺ス

義康　岡本城ニ居ル天正十六年北條軍上總ヲ略シ安房ニ攻入セントス義康久留里城ニテ防ク天正十八年秀吉北條ヲ征スルニ及ビ義康計ヲ以テ北條軍ヲ敗リ秀吉ノ感賞ヲ得タリ（九月二十日）ノ賜ヲ利鎌倉ノ地ヲ収メ安房国（九月二十日）ノ賜ヲ利鎌倉ノ地ヲ収メ安房国（九月二十日）ノ賜ヲ利鎌倉ノ地ヲ収メ安房国

忠義　慶長九年九月朔日従大久保忠隣ノ縁座ニテ領地ヲ没収セラル

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

稲村城趾

一、位置　安房国安房郡稲村の大字にあり。北條町ヨリ

一、築城　源義家の孫、新田義重の子義俊を祖とする里見義実ニ北を築き子孫成義、義通、義豊之に居る。

一、変遷　建久四年（一八五三年　源頼朝時代）義俊安房の守護職となり手群郡にある数世の裔孫刑部少輔家基（義実の父）続城氏朝と共に春王、安王を擁して続城城に據る　足利義教兵を遣してこれを討つ　嘉吉元年辛酉四月城陥る　家基これに死す　是れより先義実家基其の義実をして援を相州三浦氏にもとめむ　また帰らずして城陥る

義実時に二十七才（或は年二十一才）直に本州に遁る　舎本州の豪族大に乱る　義実本州を平げ城を白浜に移して之れ住す

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

後白河の南隣なるを以て稲村の地に移城す
附 里見氏の始祖 義後上州の里見に戻りしため里見氏
と云ふ

宮衣城趾、

一、位置、安房国安房郡、大津村の東宮衣村の北にあり。

一、築城 里見義実のる 成義の築く所にして 享禄、天文の間
義豊此に居る（口碑云）

一、変革者 義豊入れにして父（義通）を喪ひ叔父、実堯、家臣
の事を聴す 義豊已に長ず 宮衣城に居り 兵を養ひて
稲村城を襲ひ 実堯のる 義堯の兵、大挙して
進み来たり、両軍接戦して義豊の軍所在皆奴れ終に自殺
す 時に二十二 二子あり 義尭、尭通と云ふ（郡史云）

義豊初れき城に居りしが後稲村に移り 其臣宮衣宮内、鎌田
孫之丞として城外たらしむ 天文三年四月、義豊戦死す 二人之れ
殉し遂に城廃す。（国志云）

久留里城址、（別名、浦田山、両城、又ハ浦田城）

一、位置、上總国君津郡市場町の南、木更津を距る。

一、築城、

明応年中、久留里城ハ浦田山を十し城を築キしと云ふ。

後下總ノ據ノ粉くや西總を巡視して浦田山を十し城を

久留里記に曰く、昔相馬將門大女の威有りて三子を生む。

里見記に曰く、刑部少輔義堯か築く所なりと。

房總軍記ハ、里見刑部少輔義堯、大永三年上總望

陀郡の浦田に築かるゝ久留里城と云ふと載す。

一、裏遣、

建久年間

往時里見氏の盛強なりし

地方を鎮す徳川氏の時天正十八年、大須賀五郎

左衛門忠正、久留里城を賜ハり入部慶長二年

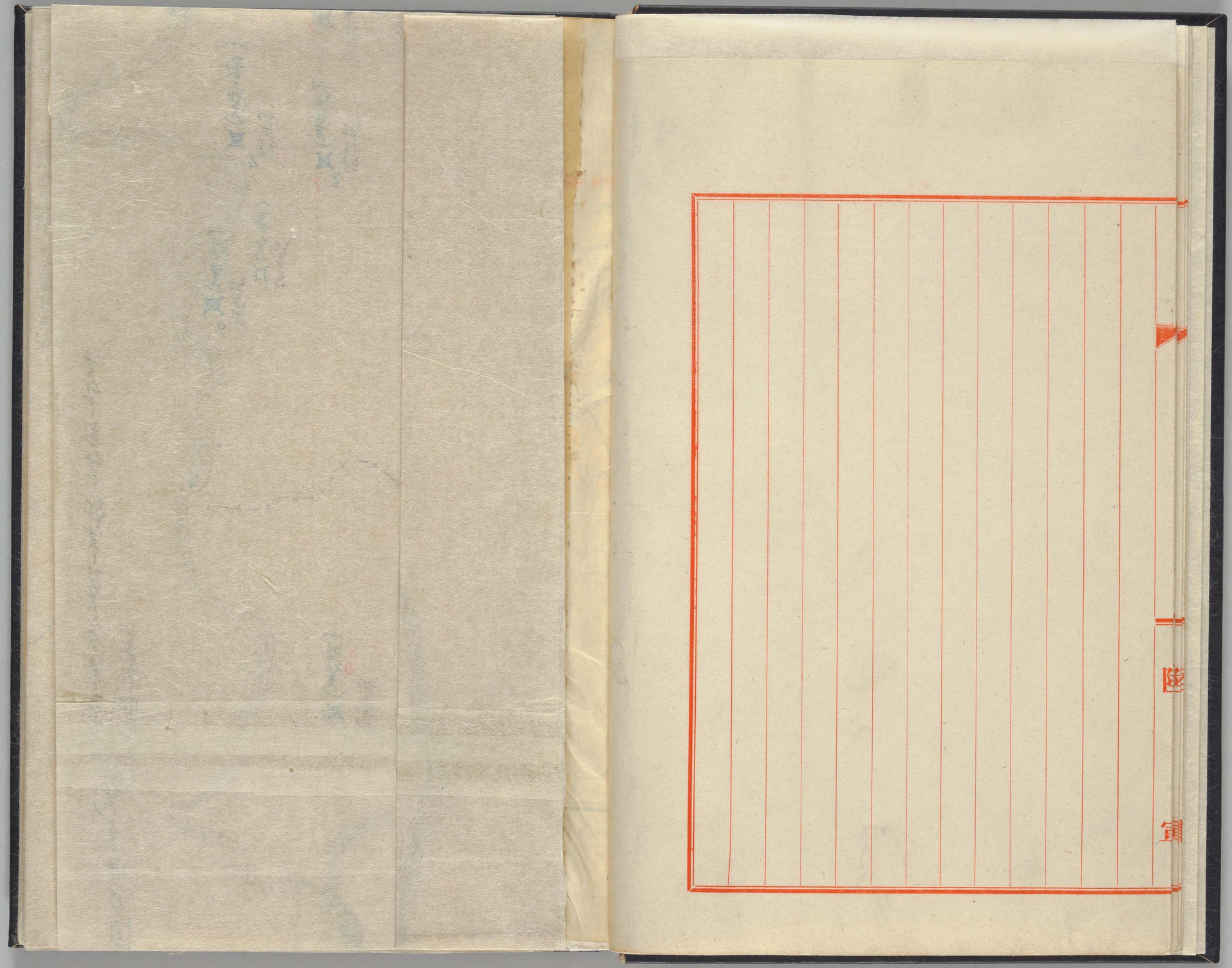
上總州へ轉ノ同七年土屋民部少輔忠直賜ハり

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

傳へて孫頼重に至り（現在細峠）、延宝七年陣封 印廃城
寛保三年、黒田大和守直純、上州沼田城より轉封し
久留城を再修す。封三萬石、筑前福岡藩の分家
とす。維新に至り終に廃す。
関ヶ洲古戦録云、天文廿三年七月、北條氏康の下知を受て
北條左衛門大輔綱成、上總口久留里須浦田の城へ押寄
向郷に着陣して、日合、松葉、葛原辺に陣を取敷く里見
家にも萬石の土岐彈正少弼頼定（後入道慶岩）根
小屋の正木久太郎時綱（後大膳亮と改む）鳴戸の忍里美
作守、湯名の山左京亮、二宮の須田將監、洲西の茂木
契茂九郎、市原の真井紹宇等、四千余騎、大手搦手の手
配して一戦に及ぶ。南方の人数、陣形渡川を渡り、大川口へ懸
りまくると正木久太郎は渡り合、追っ捲っ三度の迫り合終て

正木勢敗北し、獅子曲輪に引入、是と里見家
水と云、あくる日南方勢打負て、田宿の澤田を乗越て左往
右往に此行。

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

奥遷変城旧氏見里

N

1/200,000

下

總

上

總

國

例凡

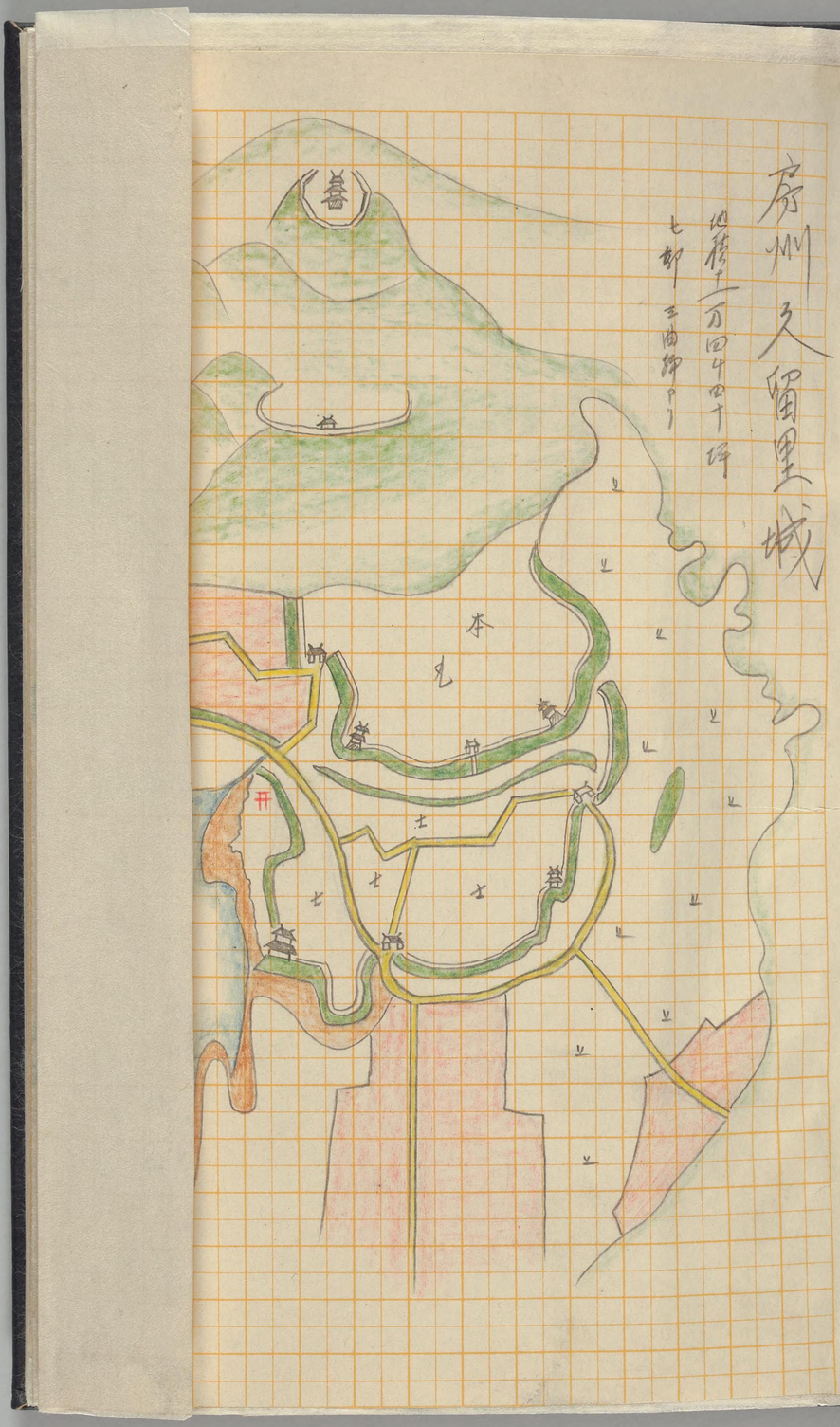
一、某国郡名ハ移転地ノ名ヲ
二、括弧内ハ旧城主ヲ

○里見氏盛衰表
一、文安二年正月安房及上總ノ一部ヲ領有
二、永正三年上總ノ全ヲ略ス（本拠ヲ稲村城ニ移ス）
三、明応二年下總ヲ略ス（木内城）
○収縮
四、天文七年下總北條氏ニ帰ス
其ノ上總モ北條氏ノ勢力及ブ所トナル
○回復
五、天文二十一年上總ノ白滑ヲ回復シ永禄三年下總ヲ回復ス
○収縮
七、永禄七年下總ヲ失ヒ上總ノ一部モ北條氏ニ帰ス
八、天正六年北條氏ノ圧上總ヲ失ヒ（稲村城ヲ本拠トス）
同十五年館山城ヲ安房ノ一国ヲ保ツ

里見氏盛衰図

1 白滑城（義実）
2 稲村城（義成）
3 久留里城（義通・義豊）
4 館山城（義康）
5 佐貫城（義弘）
6 岡本城（義頼）
7 宮本城（義豊）

宗義・義堯・義弘・義頼・義康・忠義



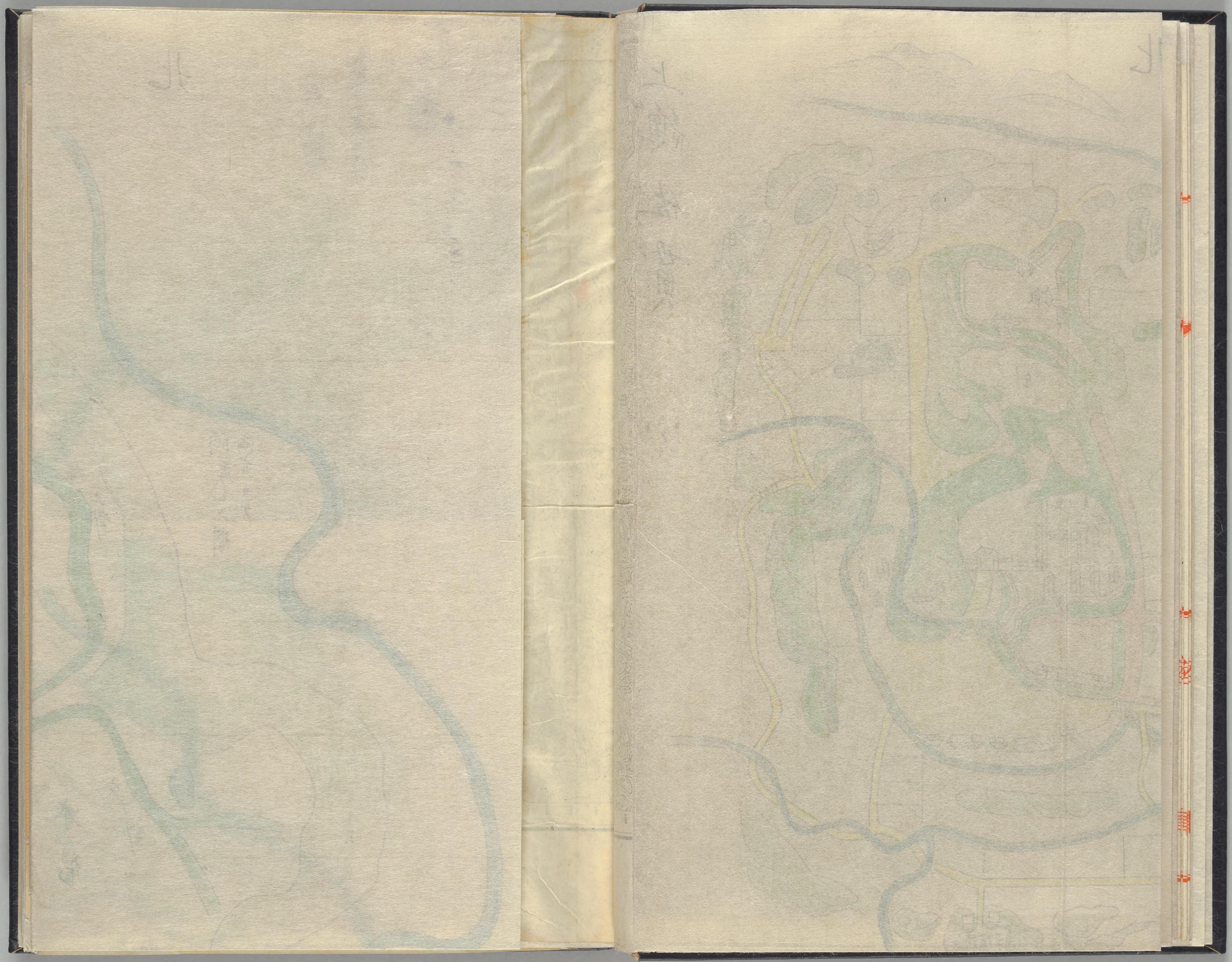
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4

上總佐世見

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4

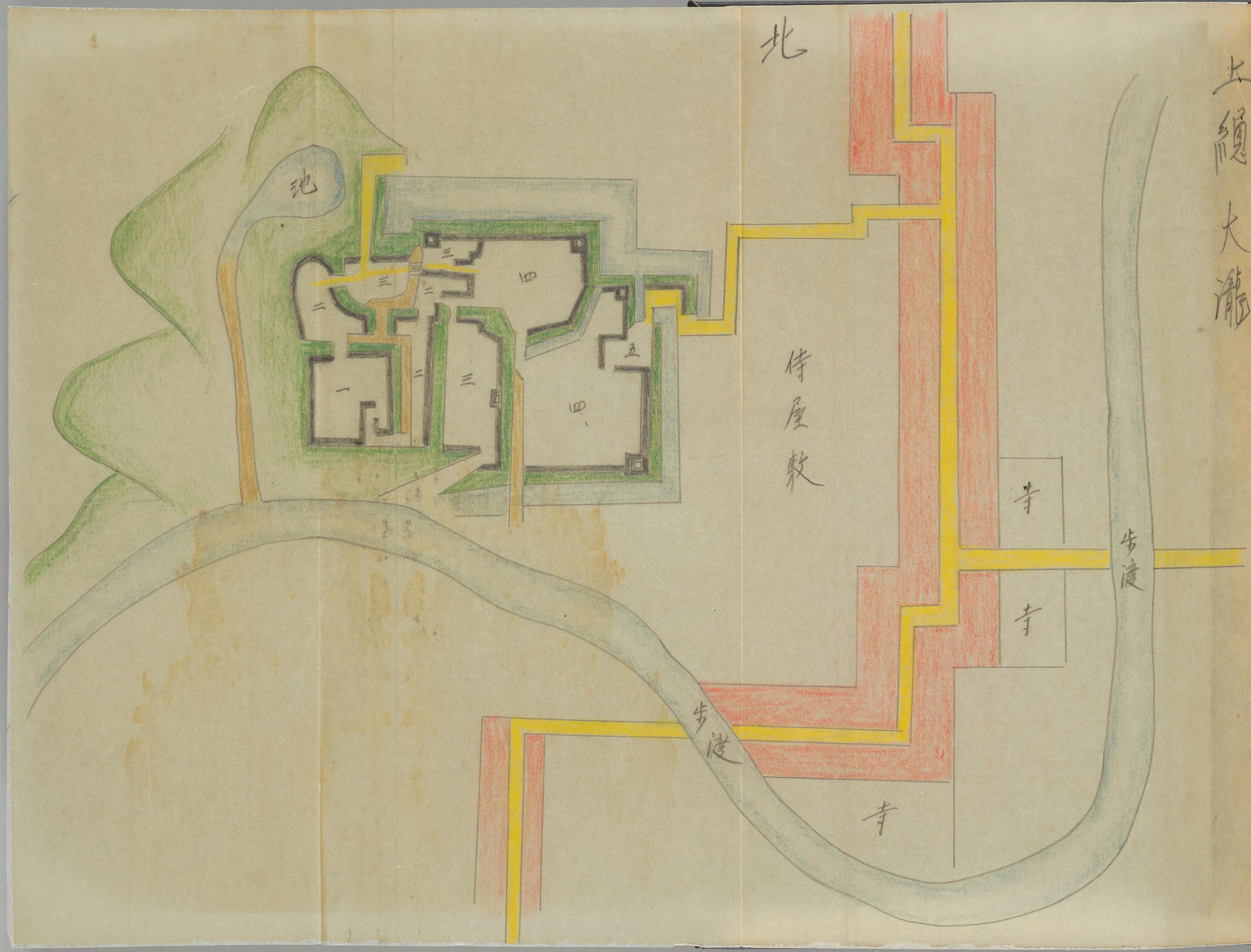
大多喜城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

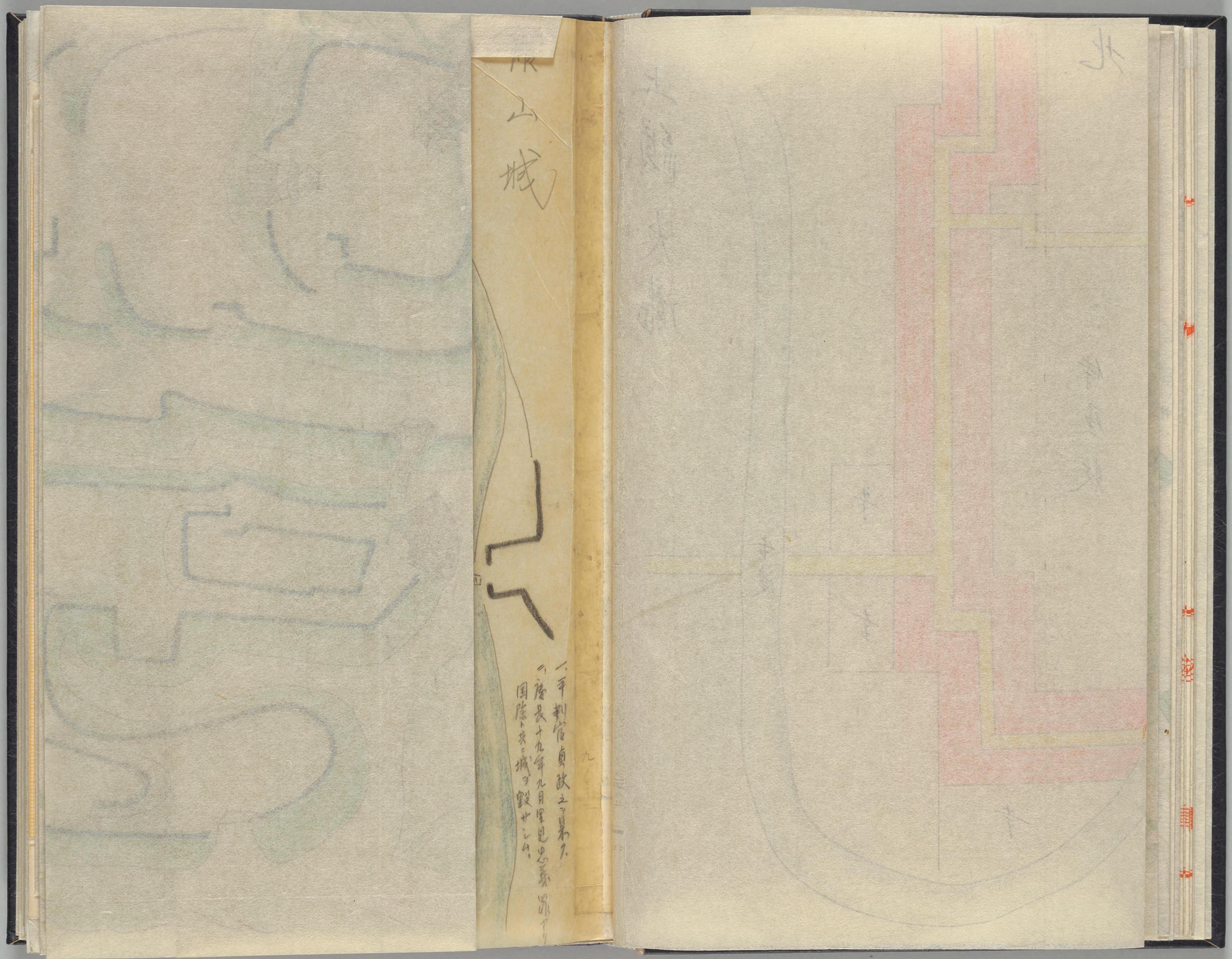
大多喜城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

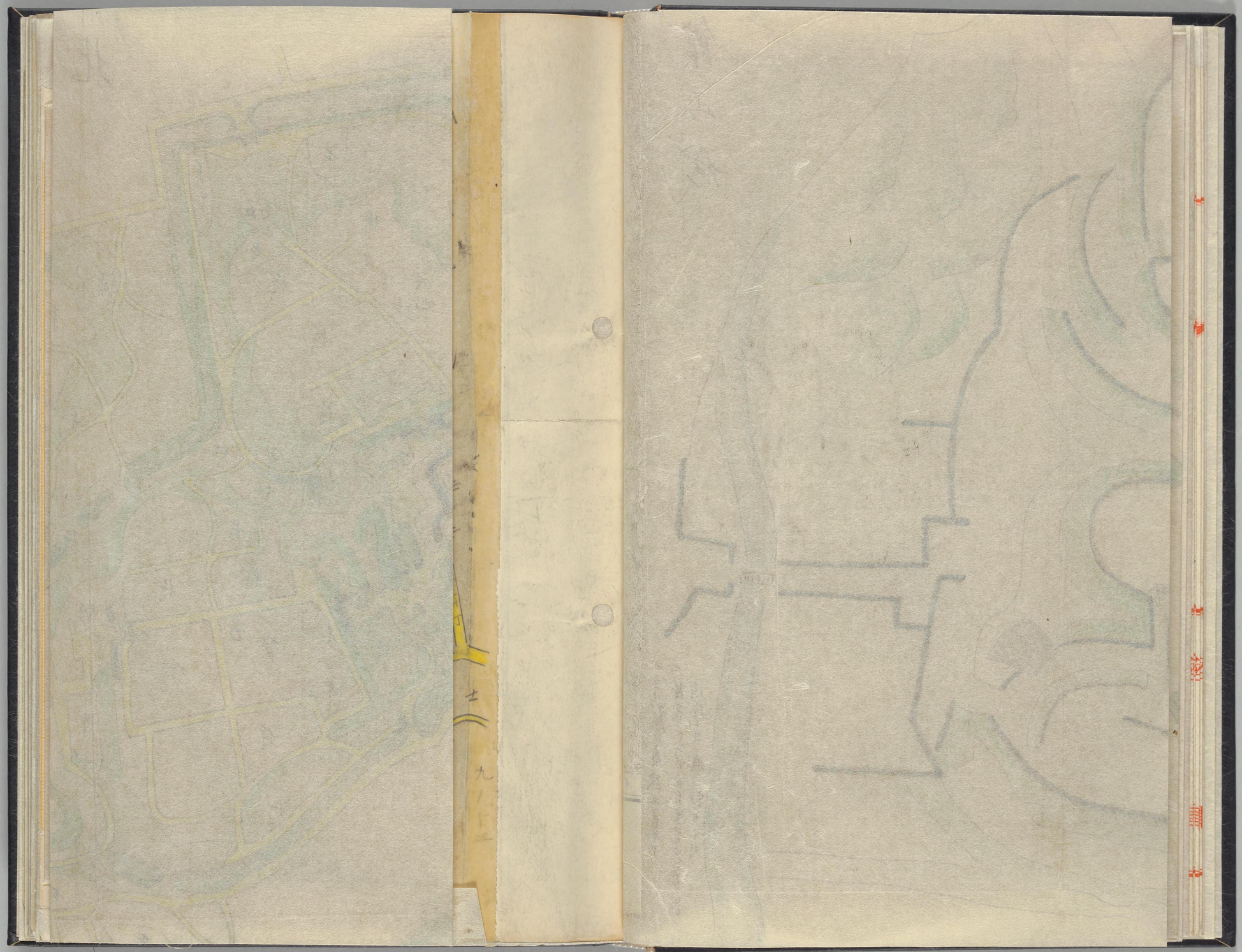


国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

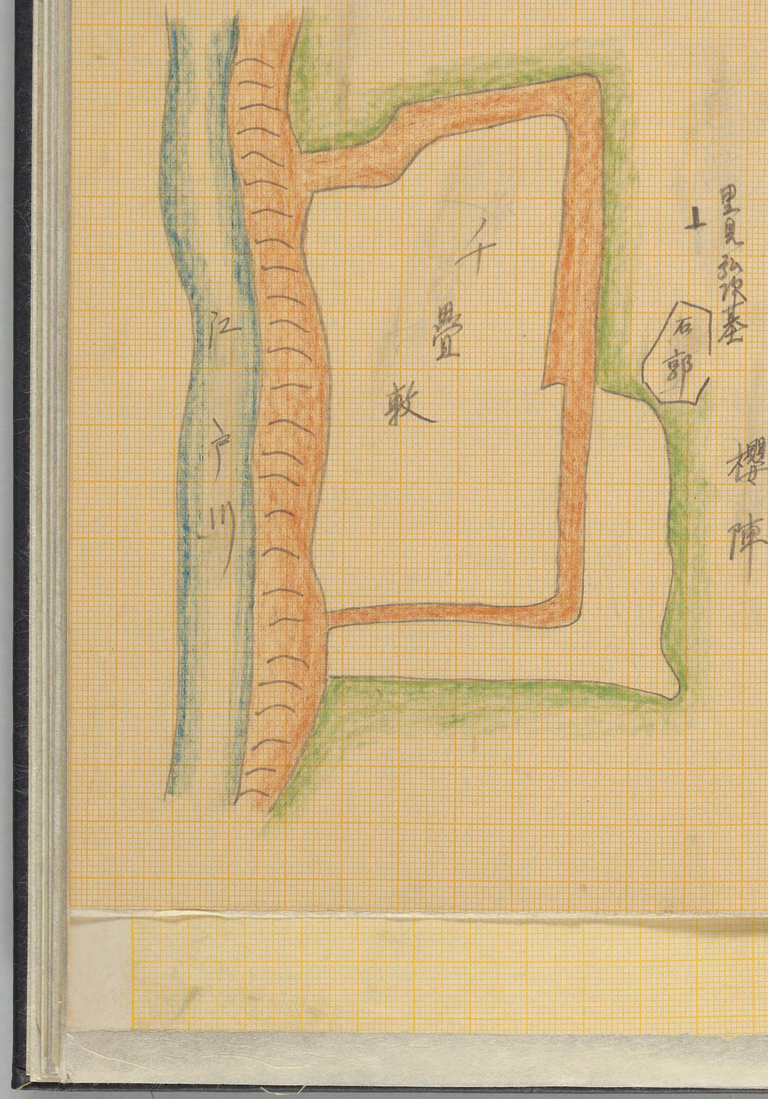
下総佐倉城

北

カレヤ橋
カレヤ門
田
畑
士
侍調練場
侍
寺
長ヤ
麻
アサノ
侍
畑
寺
士
畑
寺
侍
畑
侍
侍
侍

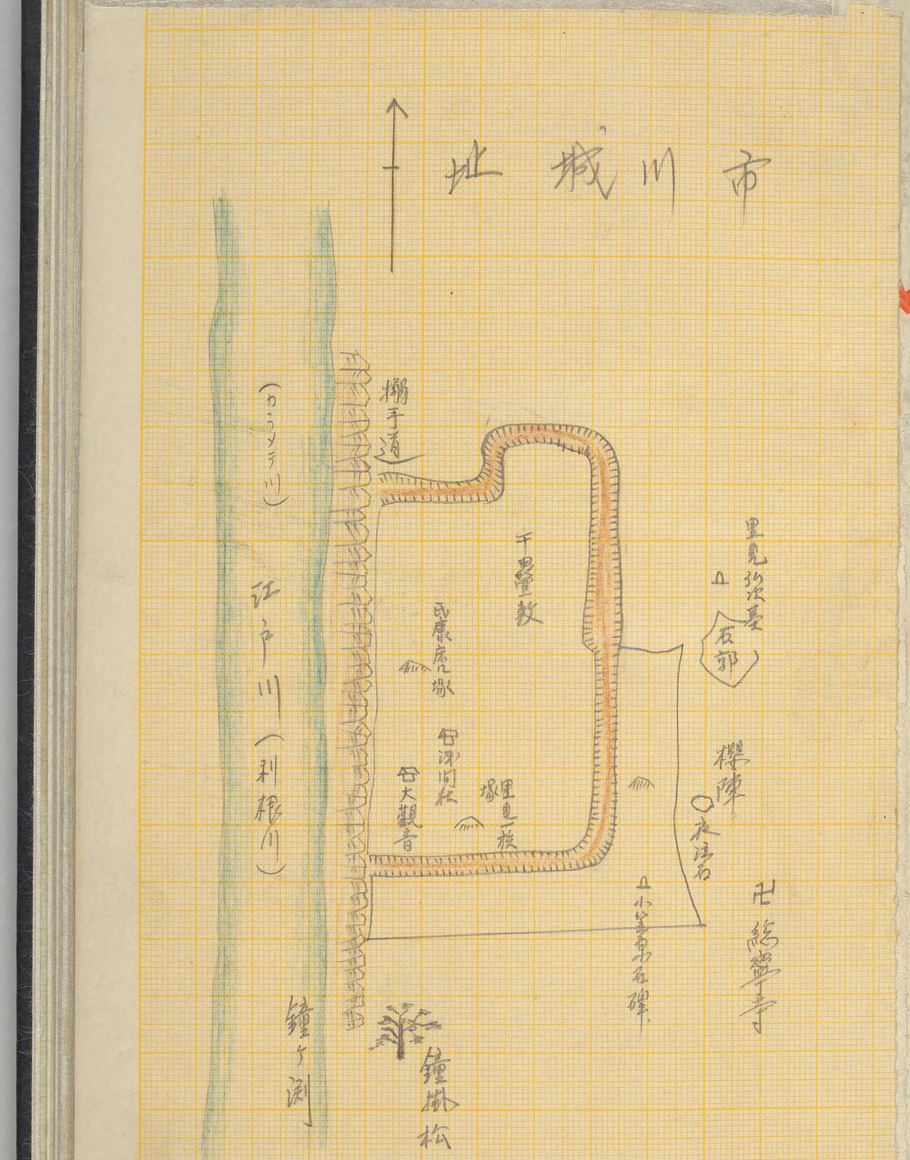
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国府台城址

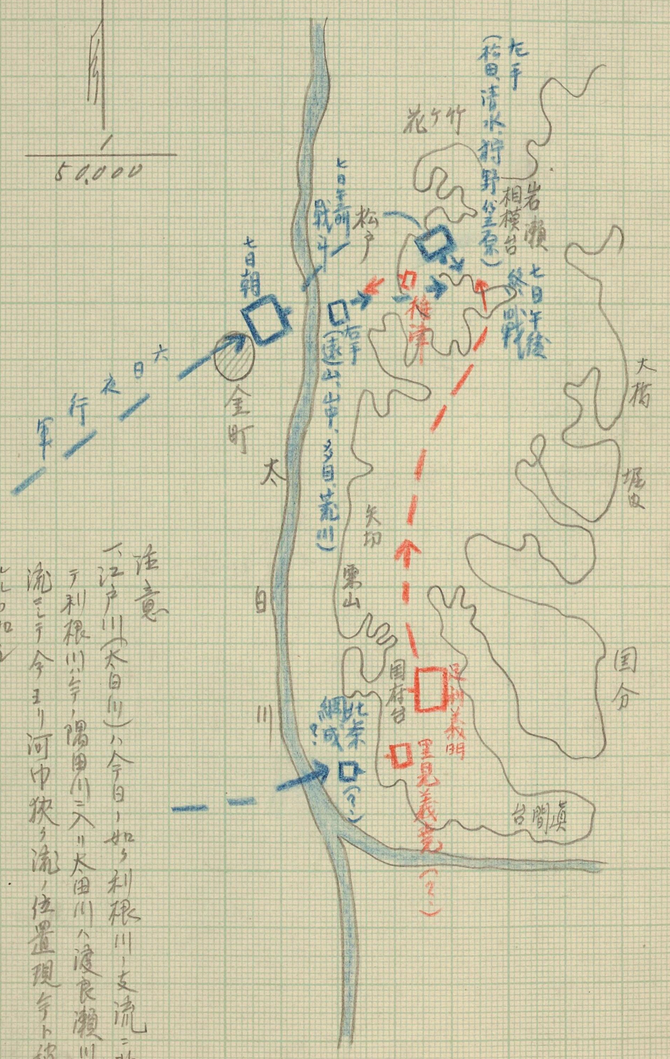
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

鴻台前役想像図

天正七年十月七日



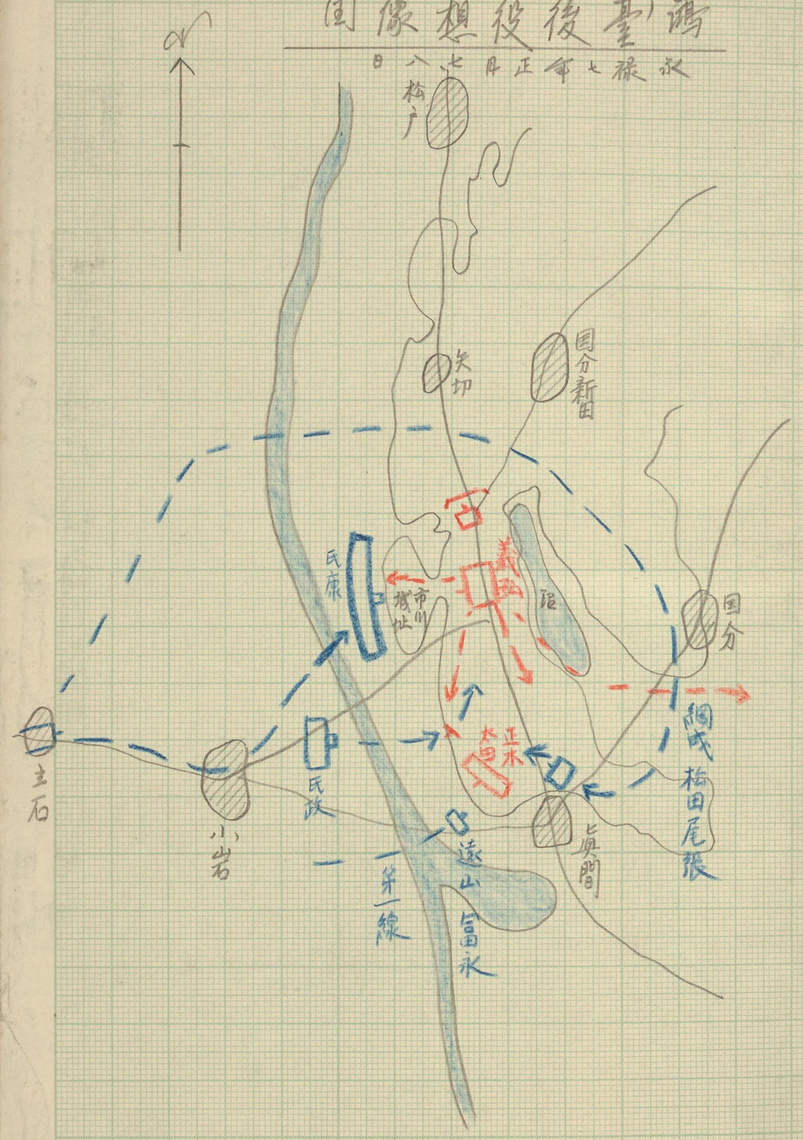
葛西城、北条方 富永三郎左エ門尉 書下

注意
一、江戸川(太日川)ハ今日ノ如ク利根川ノ支流ニ非ス
利根川ノ下ニ陽田川ニ入リ太田川ハ渡良瀬川ノ下流ニテ今ヨリ河中狭ク流ノ位置現今ト稍異ナルカ如シ

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4

国像想役後基調

日 八 七 月 正 年 七 稼 永



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

小金城

天文六年九月竣工
高城氏ノ居城
文禄之年廃城ト

北

東面佛郎之段

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

下野牧込之図（シモツケマキコメノ）

不全井附近

溜袋

小屋場

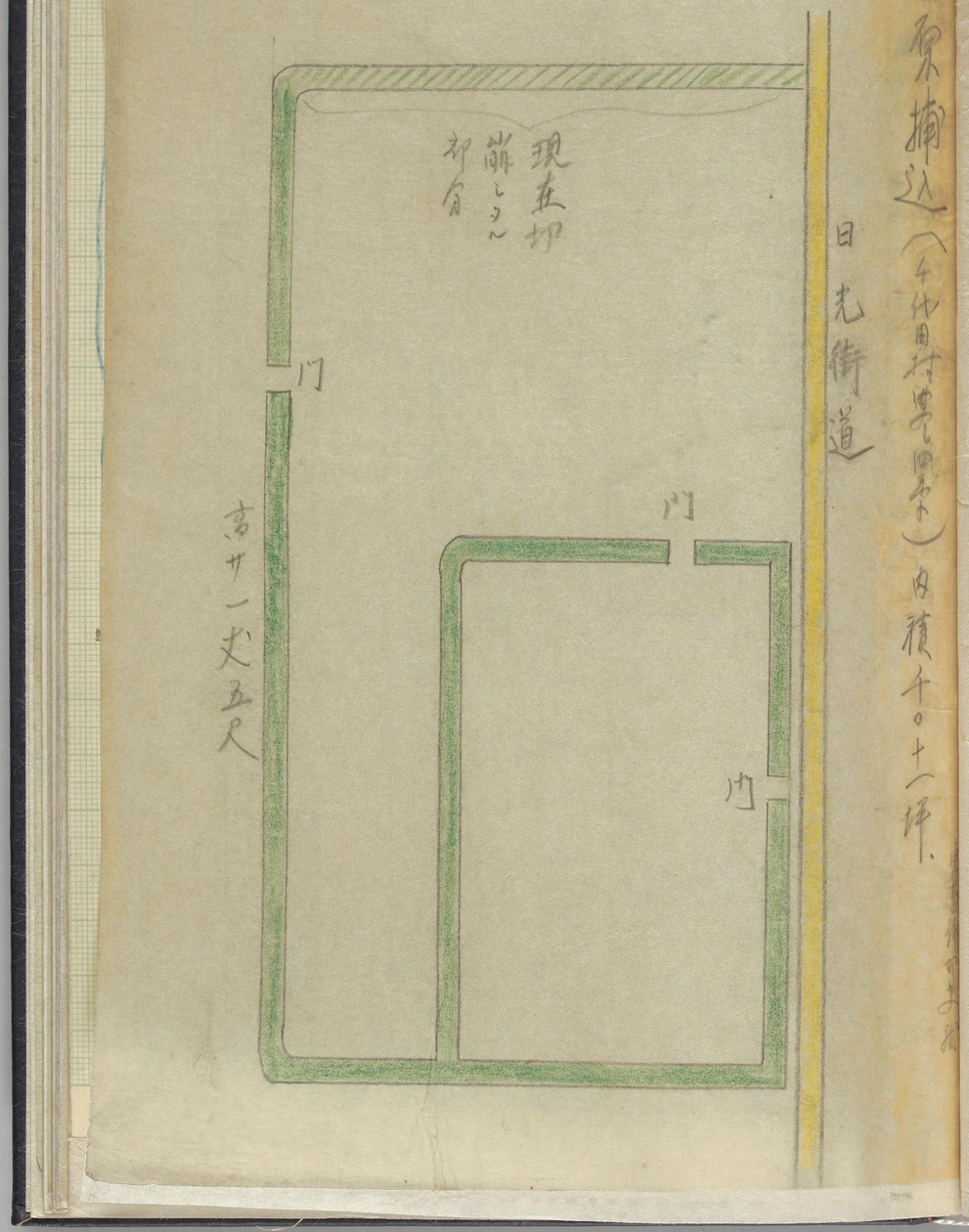
捕場

野馬追込入口

種馬入場

捕駒出口

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



小金原搦込（千住囲村共四ヶ所）内積千〇十一坪。

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

下総根木内城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

陸軍

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

回城休木根

N

1/1000

本丸

(1200坪)

A

B

C

D

54.0

7.0

面断ノ A－B

1/600

13.0

2.0

3.50

3.20

面断ノ C－D

1/600

15.0

3.0

3.60

4.0

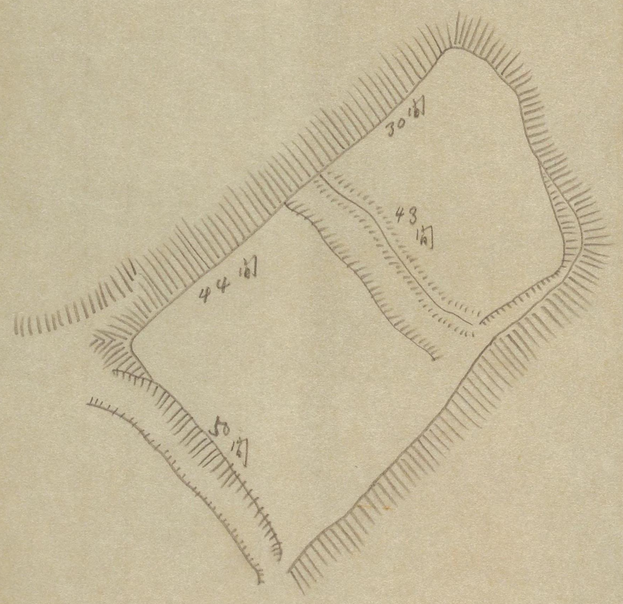
此南方約五拾米ニモ堡面二五ノ一里

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

戸張城

東蒲柿郡千代田村大字戸張

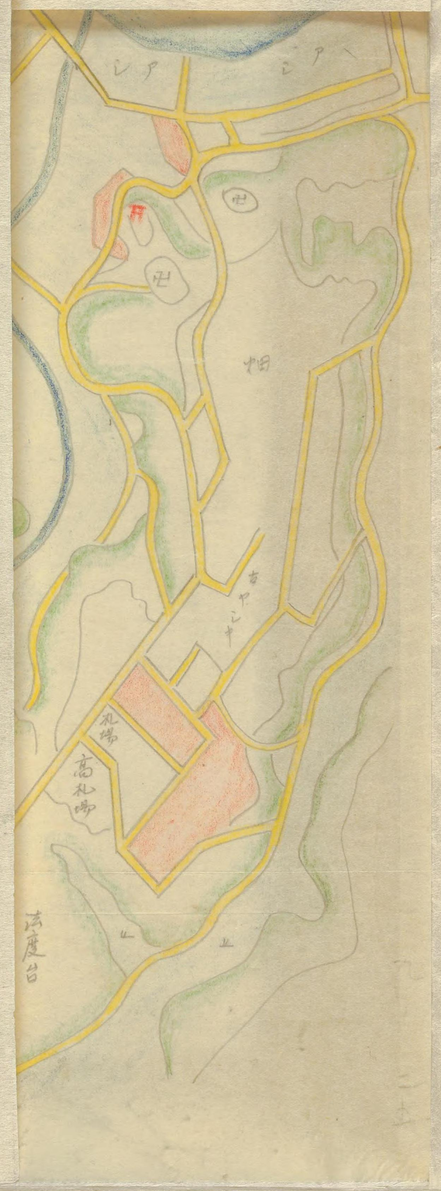
戸張弾正忠居城



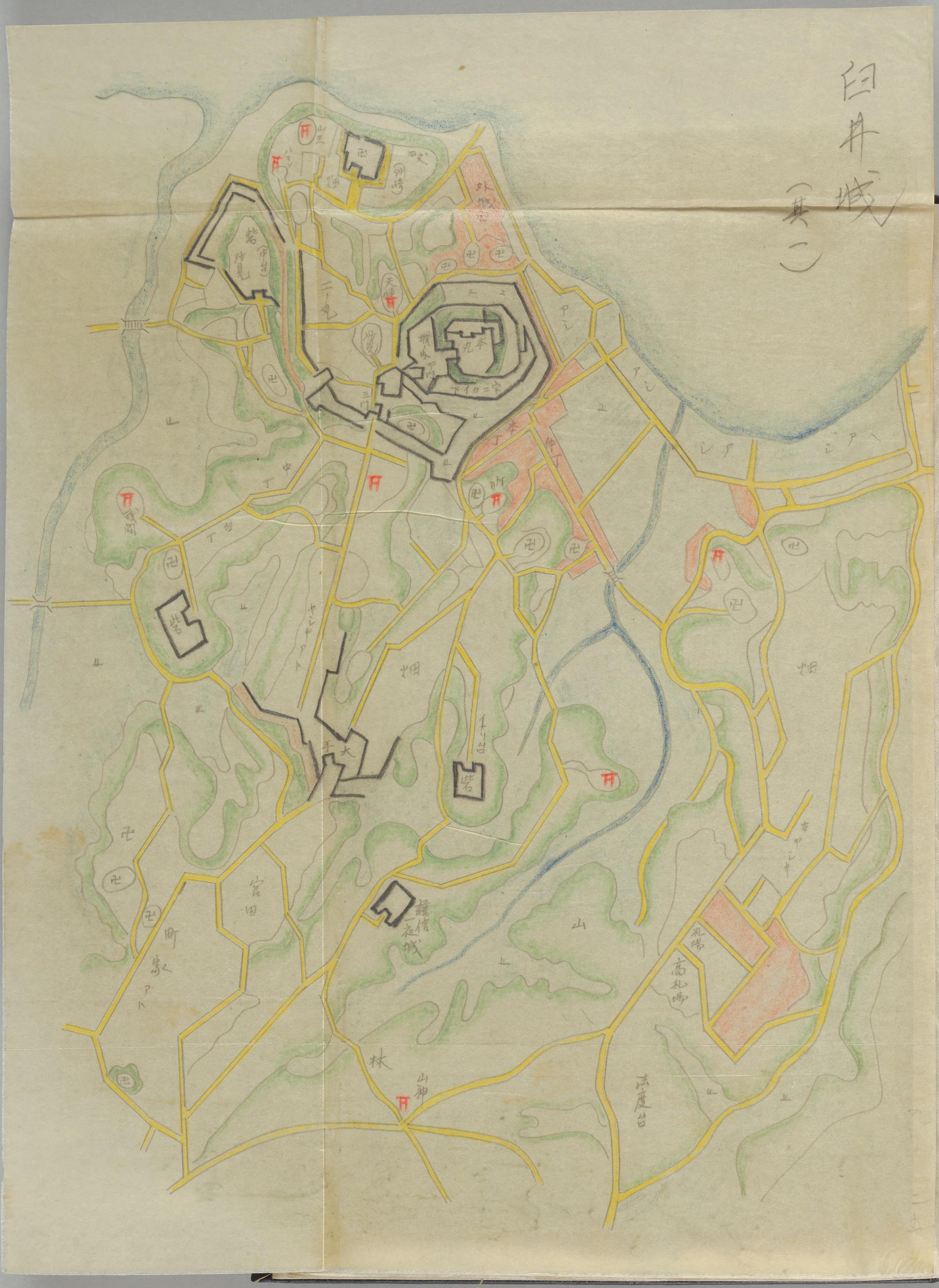
東蒲柿郡史誌

九ノ二四

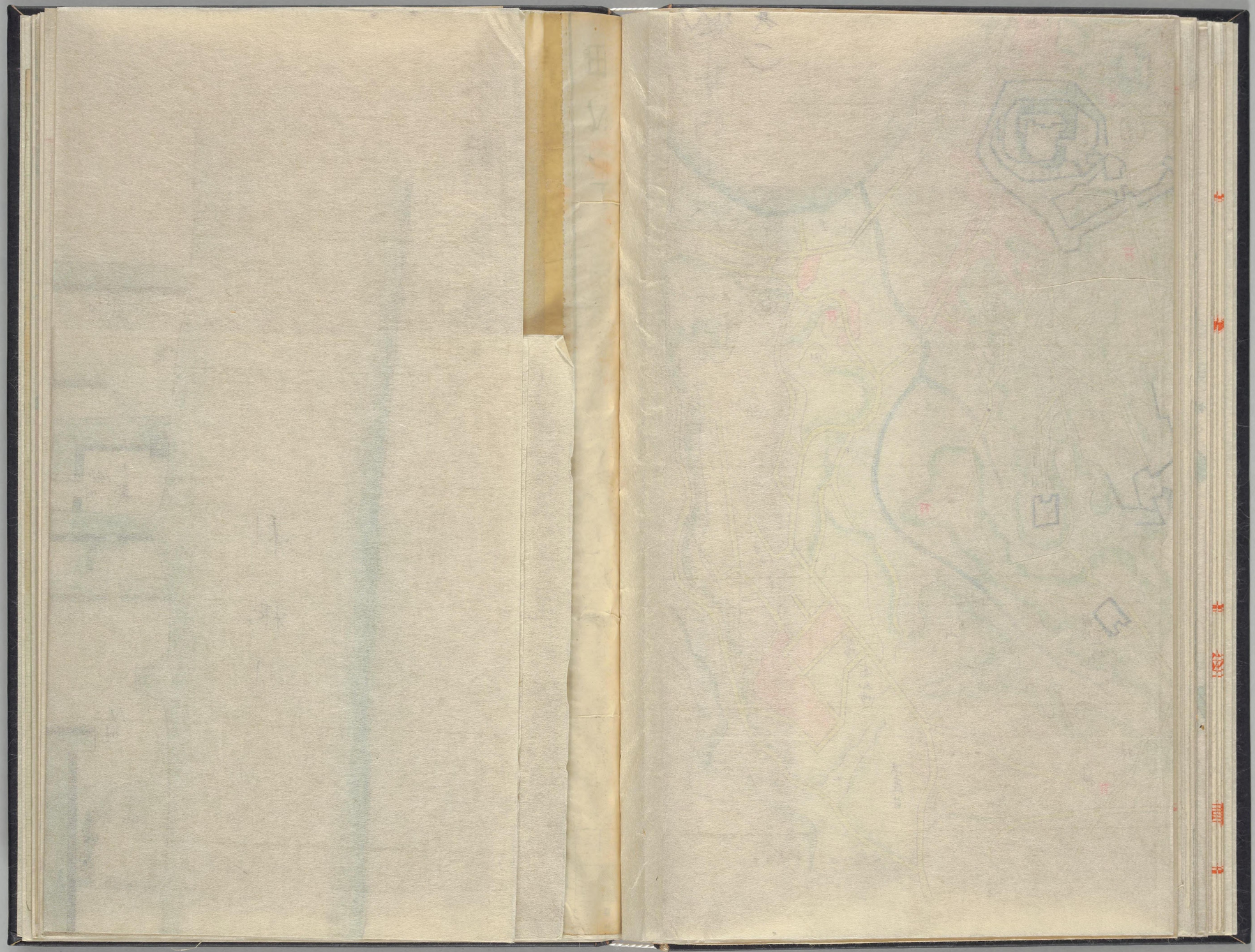
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

北

下總栗橋

利根川

土藏

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

結城城主変遷表

城主	城主石高	期間	河内守

概要

陸軍

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

結城城主変遷表

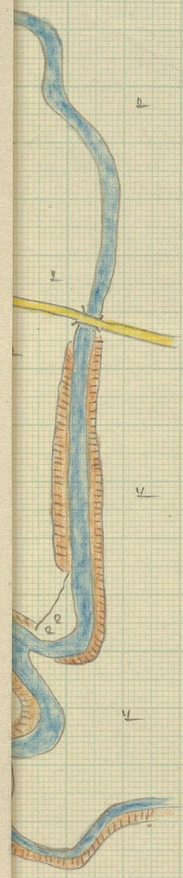
藩主	城主	石高	期間	備考
結城秀康				小山で望大権現の三男 幼名
〃	朝矩		慶長七年中	結城秀康
〃	広綱		元和二年中	八七万石を
〃	時広		元和三年	領す。
〃	貞広		延宝三年	
〃	納祐		建武三年	
〃	直朝		寛永二年	直朝高師冬を援けて常陸の宮方をうち関東に奸名を
〃	直光		応永二年	文和元年三月(閏)武州花木の会戦の時直光越軍に加わり
〃	基光		永享二年	利を得、
民	満広			
〃	民朝		嘉元元年	父と共に討死、城一時鹿島となる。
〃	持朝		嘉元元年	
結城	成朝		至徳二年	持朝の子成朝再び結城城を復す。
〃	氏広		文明十三年	
城	政朝		永禄三年	
〃	政勝		慶長九年	政勝の弟高朝の子として、
民	晴朝		慶長一〇年	来朝す。一年、小田原陣の時朝小山、榎本両城を攻落し、秀吉より感状を
〃	秀康		慶長一〇年	与へ
水野	勝光	一八、〇〇〇石	元禄十七年	
〃	勝政		享保元年	
〃	勝喬		寛延三年	
〃	勝矩		宝暦十三年	
〃	勝起		天明三年	
〃	勝到			
堀	勝愛			
〃	勝進			
〃	勝任			
〃	勝知			
〃	勝寛		明治二年	

(11代) 147年 (6代) 150年 約10年 (18代) (12代) 約260年

陸軍

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4

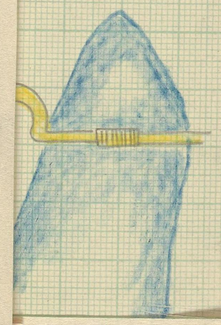
下總結城城



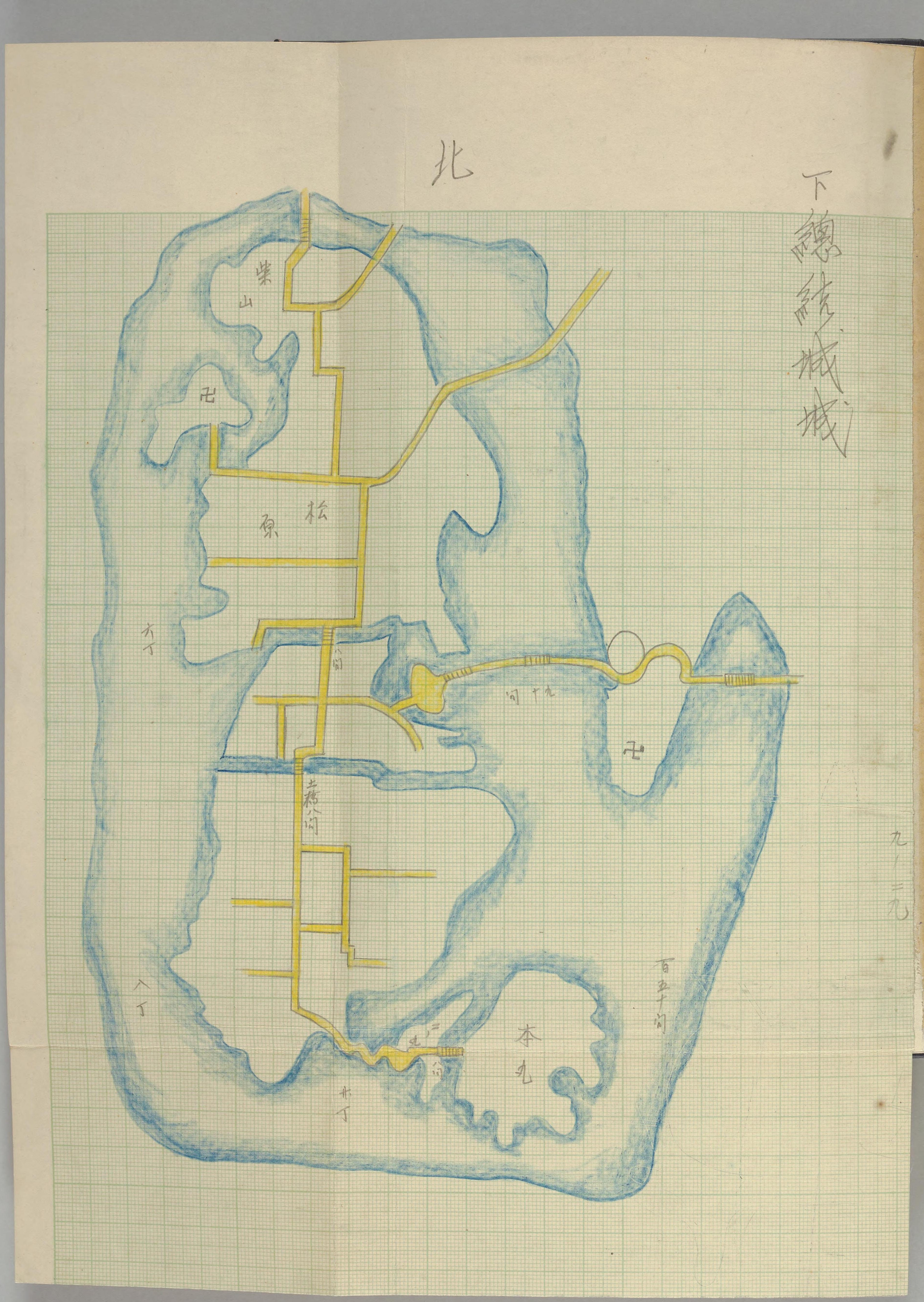
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

下總結城

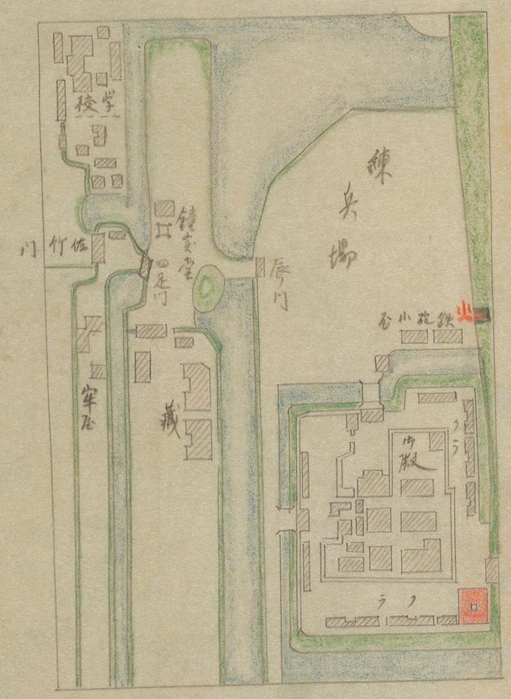


国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



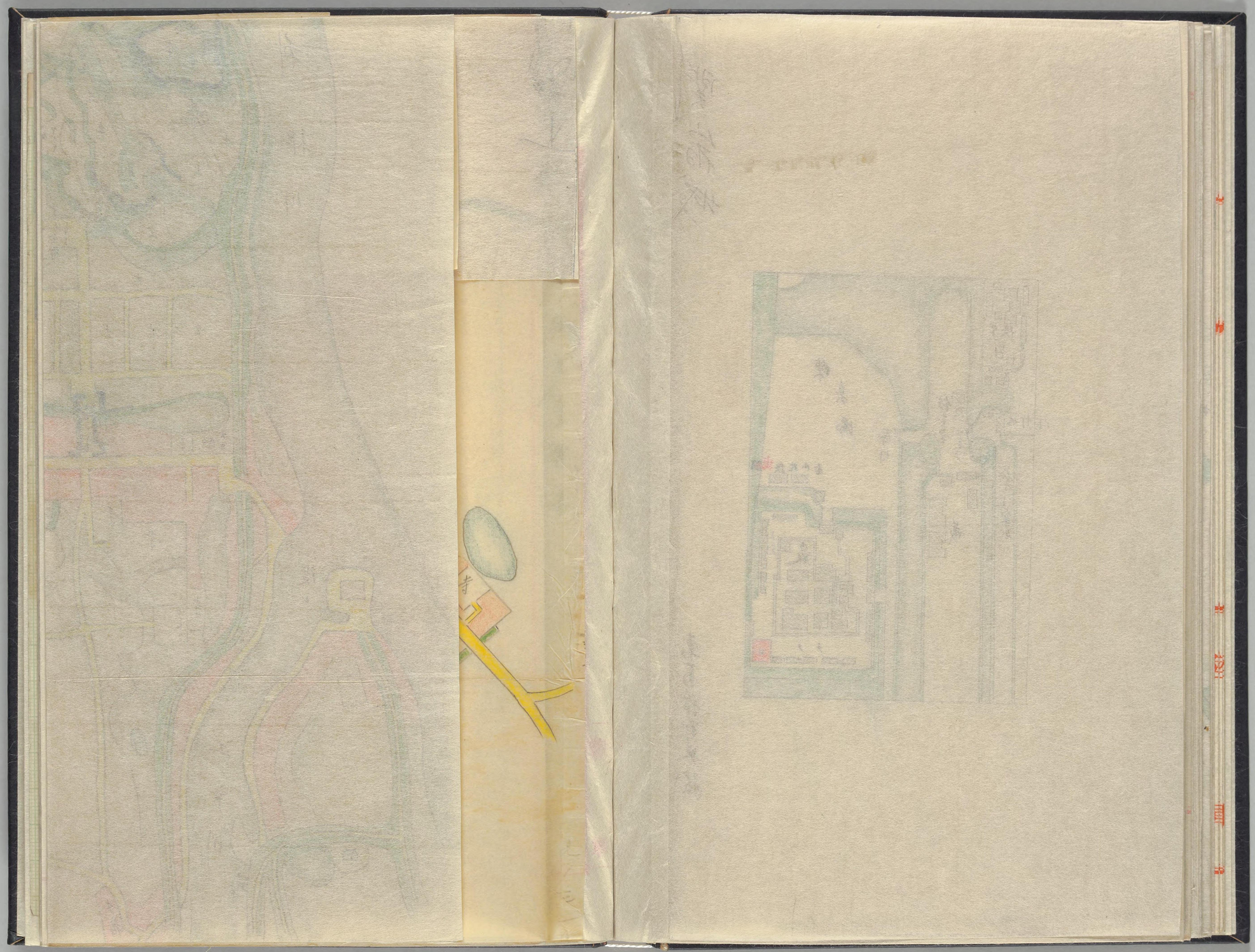
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

関宿城



東京帝國大學

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

下総関宿城

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

古河城主変遷表

陸軍

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

古河城主変遷表

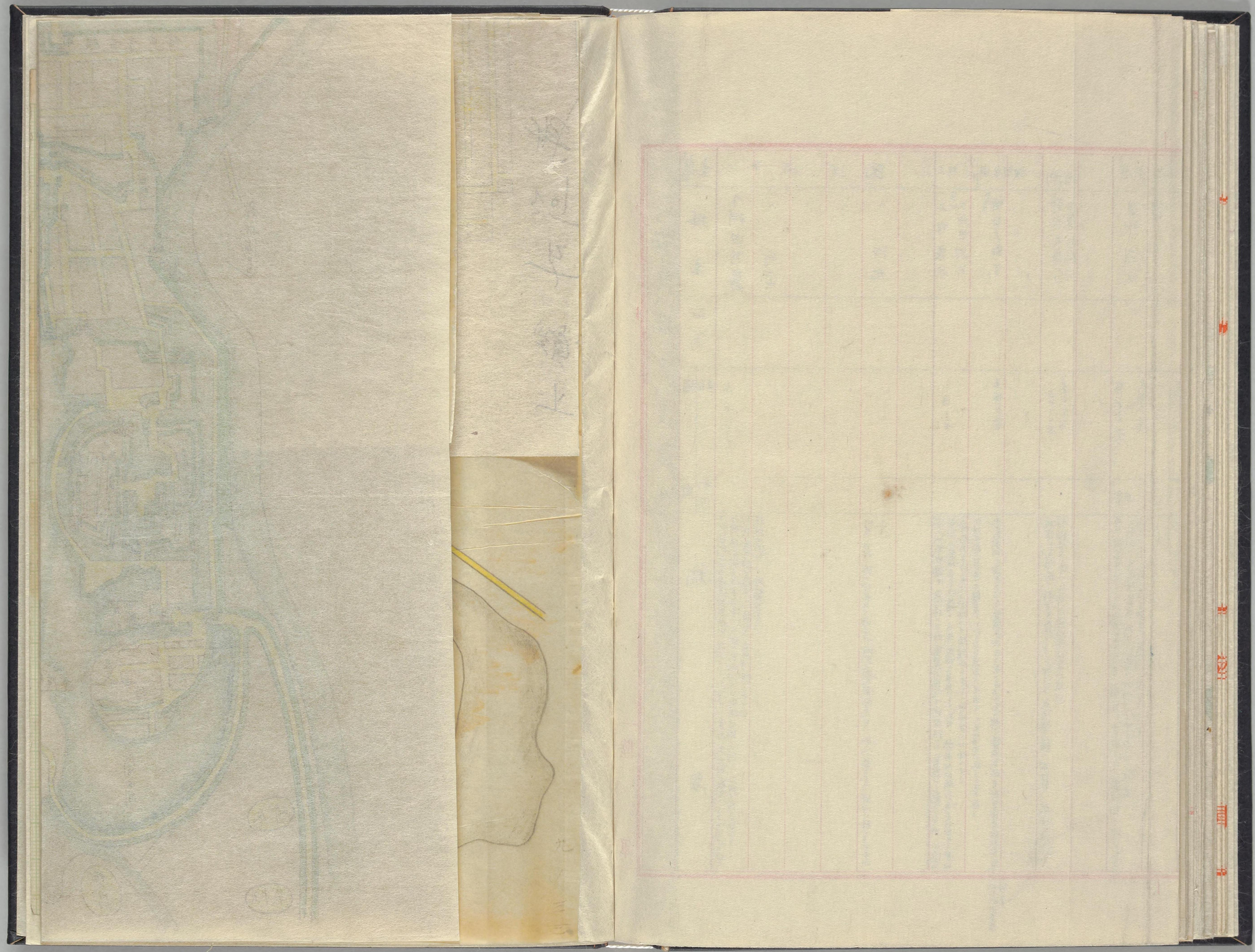
藩主	城主石高	期間	事跡
下河辺氏	下河辺九義	治承年中	下河辺氏は秀郷流藤原氏の一族で小山の祖政光の弟行義古河に住し下河辺氏と称す。行義は源頼朝に属し治承年中古河城を築き居城とす。
下河辺氏	〃 行平		行義の孫行光の代に古河城下河辺荘を領す。
辺氏	〃 行光	永仁二年	関東大地震により古河城大破す。
上杉氏	上杉憲房（上杉憲実の父） 小山持朝（上杉憲実の父） 関宿城代 野田上野介、	享禄三年	古河城は小山氏の居城なりしが、小山氏滅亡後上杉憲房古河城を修築し、関宿城代野田上野介を置く。
（織田）	野田右馬介 左衛門大尉介	永享五年	野田氏は関宿城代として古河城を守る。
土井利忠氏	土井利成氏	文政三年	藩政改革を行い藩財政の再建に努む。
〃	〃 利位	嘉永二年	老中として幕政に参与す。
〃	〃 利厚	安政二年	安政の大地震により古河城大破す。
〃	〃 利与	文久二年	文久二年古河城を修築す。
〃	〃 利延	慶応四年	慶応四年鳥羽伏見の戦に敗れ古河城を開城す。
〃	〃 利興	明治二年	明治二年古河藩を廃し古河県となる。

城主	在城年数	事跡
下河辺氏	治承年中より文永年中まで	下河辺氏は秀郷流藤原氏の一族で小山の祖政光の弟行義古河に住し下河辺氏と称す。行義は源頼朝に属し治承年中古河城を築き居城とす。
下河辺氏	文永年中より永仁二年まで	行義の孫行光の代に古河城下河辺荘を領す。
辺氏	永仁二年より享禄三年まで	関東大地震により古河城大破す。
上杉氏（上杉憲実の父）	享禄三年より天文十年まで	古河城は小山氏の居城なりしが、小山氏滅亡後上杉憲房古河城を修築し、関宿城代野田上野介を置く。
小山持朝（上杉憲実の父）	享禄三年より天文十年まで	小山氏滅亡後古河城は上杉氏の支城となり、関宿城代野田上野介を置く。
関宿城代 野田上野介、	享禄三年より天文十年まで	野田氏は関宿城代として古河城を守る。
（織田）	享禄三年より天文十年まで	織田氏は関宿城代として古河城を守る。
野田右馬介 左衛門大尉介	享禄三年より天文十年まで	野田氏は関宿城代として古河城を守る。
土井利忠氏	文政三年より嘉永二年まで	藩政改革を行い藩財政の再建に努む。
〃 利位	嘉永二年より安政二年まで	老中として幕政に参与す。
〃 利厚	安政二年より文久二年まで	安政の大地震により古河城大破す。
〃 利与	文久二年より慶応四年まで	文久二年古河城を修築す。
〃 利延	慶応四年より明治二年まで	慶応四年鳥羽伏見の戦に敗れ古河城を開城す。
〃 利興	明治二年	明治二年古河藩を廃し古河県となる。

城主	在城年数	事跡
下河辺氏	治承年中より文永年中まで	下河辺氏は秀郷流藤原氏の一族で小山の祖政光の弟行義古河に住し下河辺氏と称す。行義は源頼朝に属し治承年中古河城を築き居城とす。
下河辺氏	文永年中より永仁二年まで	行義の孫行光の代に古河城下河辺荘を領す。
辺氏	永仁二年より享禄三年まで	関東大地震により古河城大破す。
上杉氏（上杉憲実の父）	享禄三年より天文十年まで	古河城は小山氏の居城なりしが、小山氏滅亡後上杉憲房古河城を修築し、関宿城代野田上野介を置く。
小山持朝（上杉憲実の父）	享禄三年より天文十年まで	小山氏滅亡後古河城は上杉氏の支城となり、関宿城代野田上野介を置く。
関宿城代 野田上野介、	享禄三年より天文十年まで	野田氏は関宿城代として古河城を守る。
（織田）	享禄三年より天文十年まで	織田氏は関宿城代として古河城を守る。
野田右馬介 左衛門大尉介	享禄三年より天文十年まで	野田氏は関宿城代として古河城を守る。
足利氏	足利義氏	永禄十年	再び古河に帰る。
〃	女子	天正十年	義氏古河にて卒せり。
小笠原氏（織）	小笠原秀政	慶長十年	慶長十年古河城を修築す。
戸田氏	戸田康光	慶長七年	慶長七年古河城を修築す。
（織田）	小笠原信之	慶長十年	慶長十年古河城を修築す。
永井氏	永井尚政	元和五年	元和五年古河城を修築す。
〃	永井直勝	元和八年	元和八年古河城を修築す。
奏者番	奏者番 忠昌	寛永三年	寛永三年古河城を修築す。
〃	〃 政信	寛永十年	寛永十年古河城を修築す。
松平氏（藤井）	松平信之	元和三年	元和三年古河城を修築す。
〃	〃 忠之	寛永三年	寛永三年古河城を修築す。
松平氏（藤井）	松平信之	元和三年	元和三年古河城を修築す。
〃	〃 忠之	寛永三年	寛永三年古河城を修築す。
堀田氏	堀田正俊	天和元年	天和元年古河城を修築す。
〃	〃 正仲	延宝三年	延宝三年古河城を修築す。
土井氏	土井利久	寛文元年	寛文元年古河城を修築す。
〃	〃 利益	元禄三年	元禄三年古河城を修築す。
〃	〃 利位	正徳元年	正徳元年古河城を修築す。
〃	〃 利厚	安政二年	安政二年古河城を修築す。
〃	〃 利与	文久二年	文久二年古河城を修築す。
〃	〃 利延	慶応四年	慶応四年古河城を開城す。
〃	〃 利興	明治二年	明治二年古河藩を廃し古河県となる。

陸軍

国立国会図書館　[日本城郭史資料] 第9冊　本別20-4

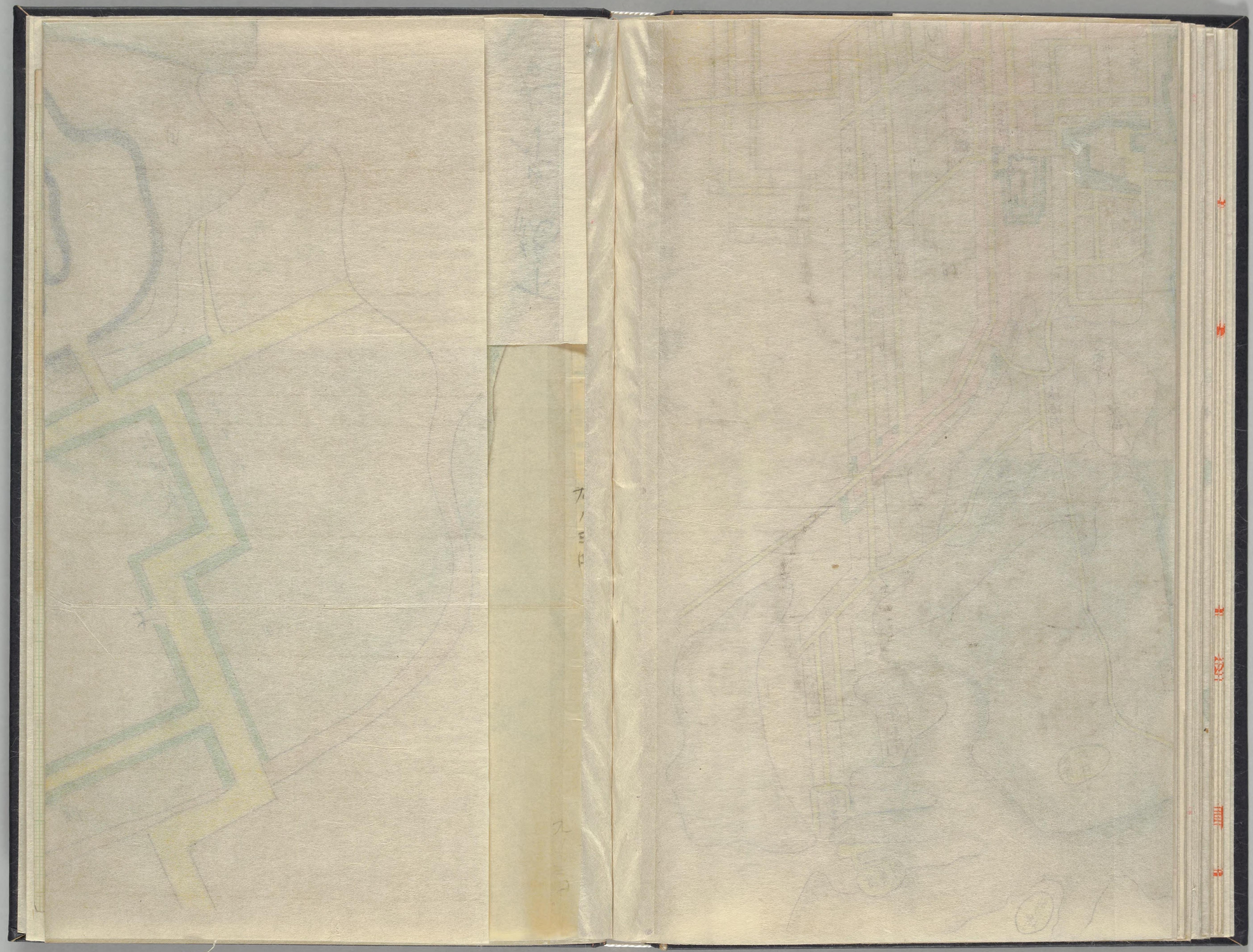


国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

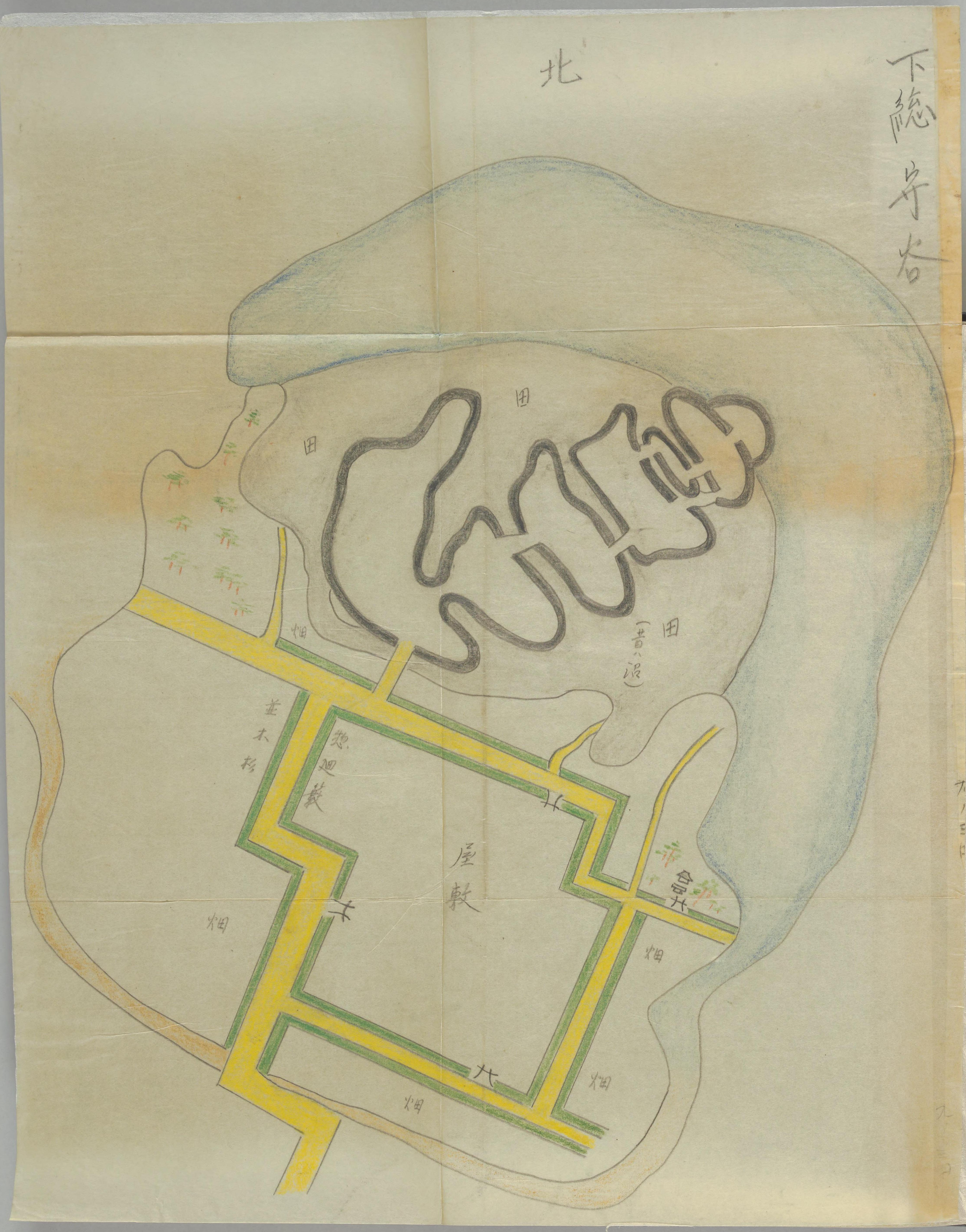
下總古河城

北

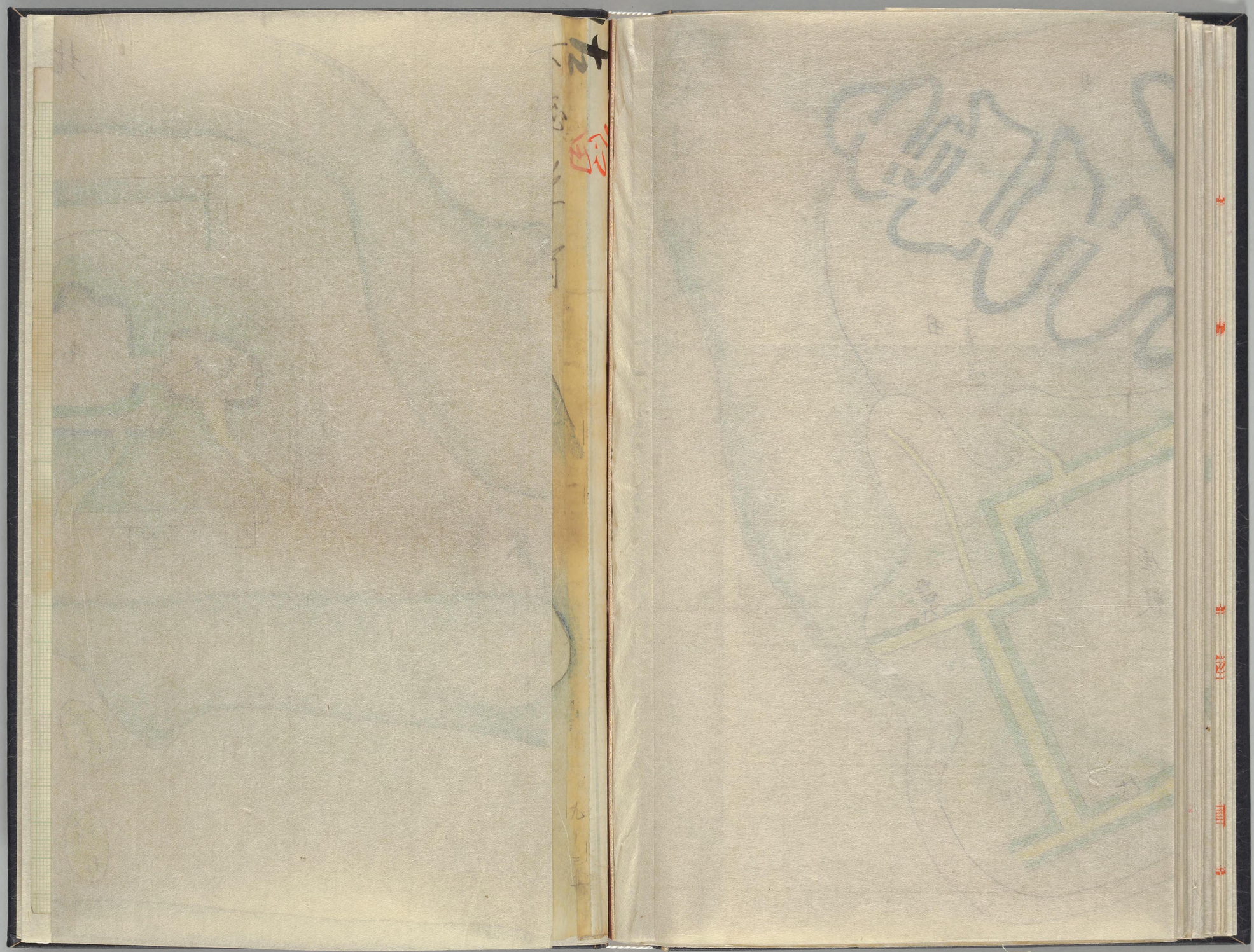
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



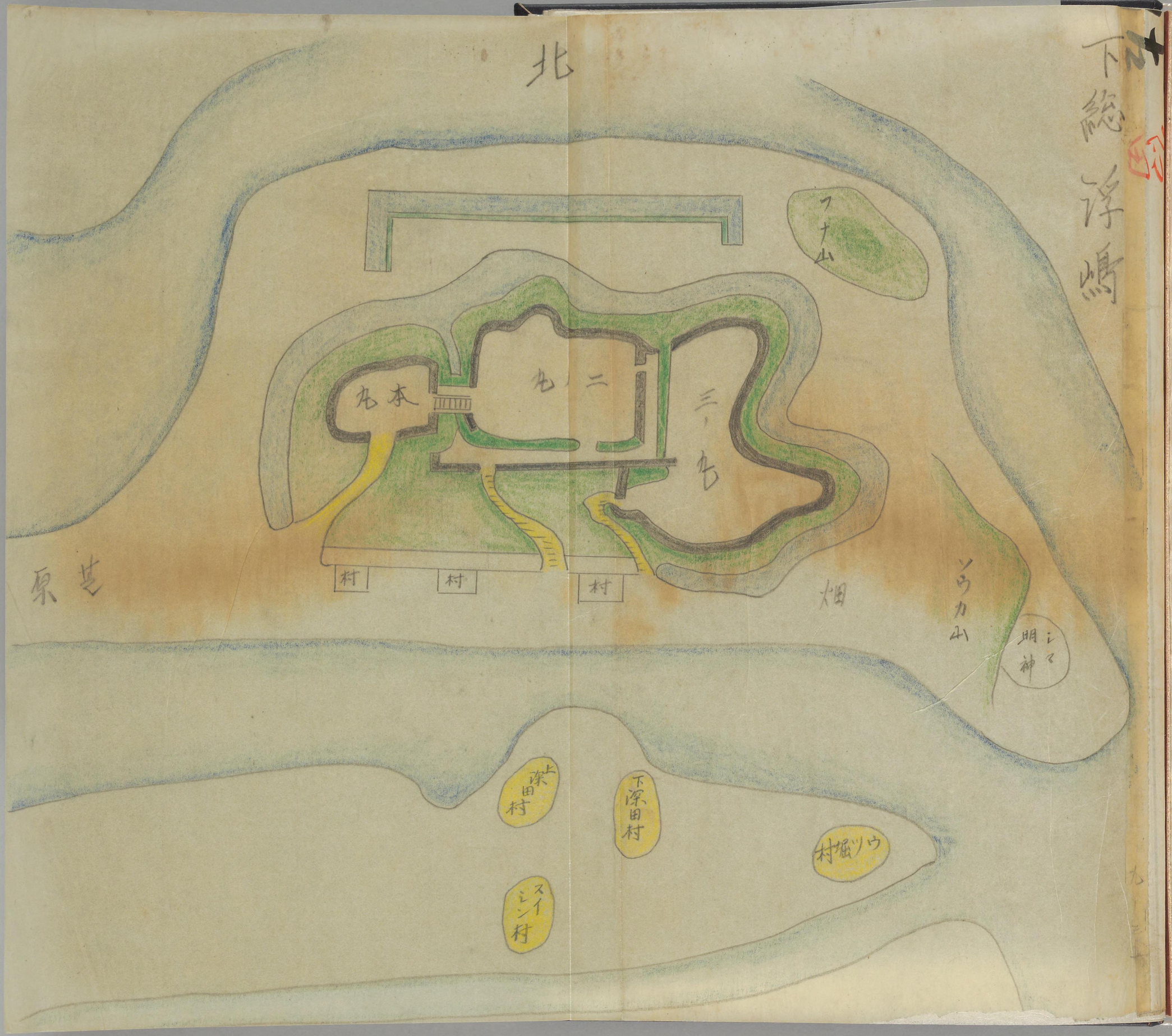
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

3-10

旧鶴峯藩廳趾

現

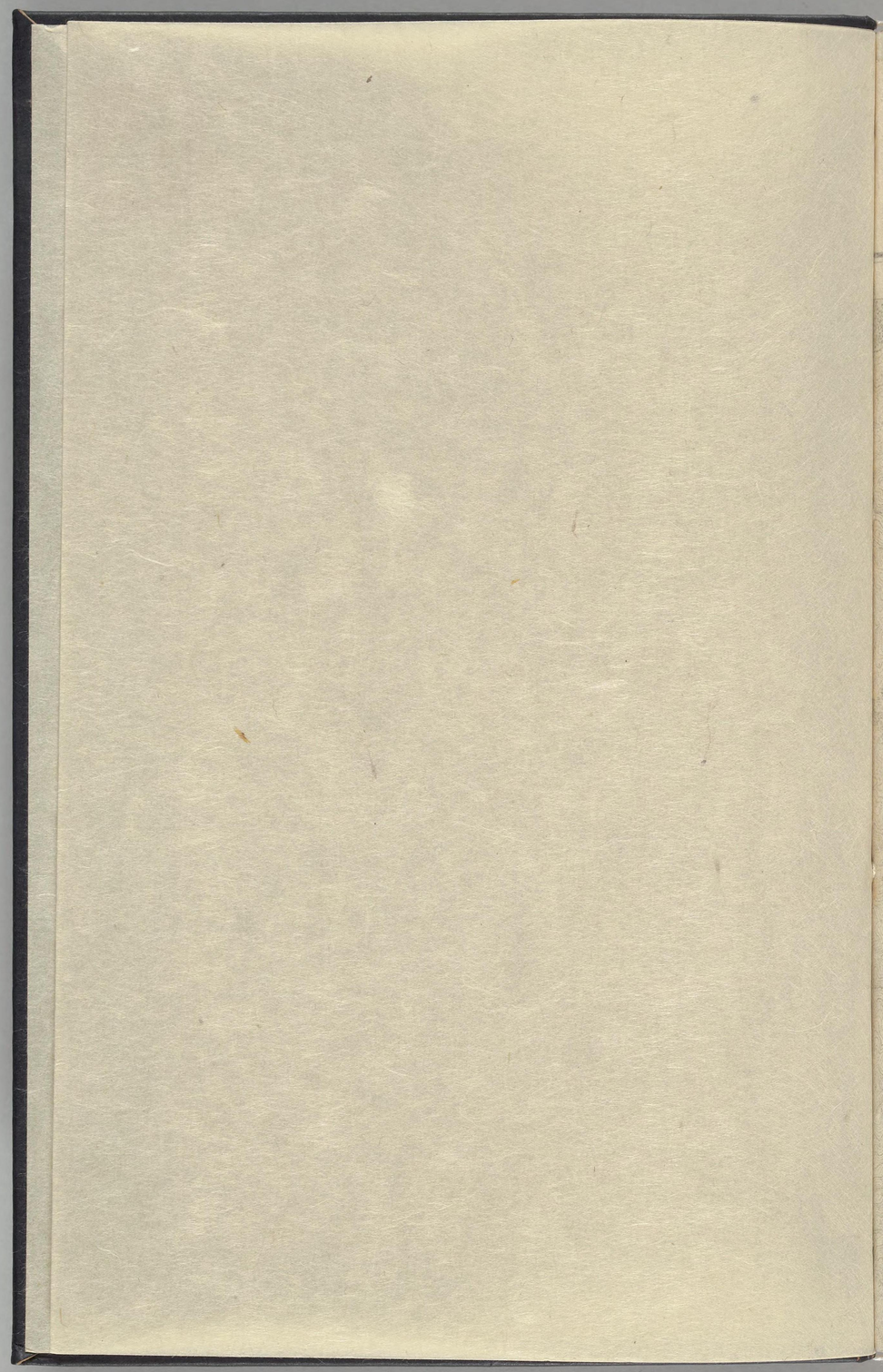
鶴城

古閑跡

旧大手

明治初年濠松ヨリ移封
井上氏五万石

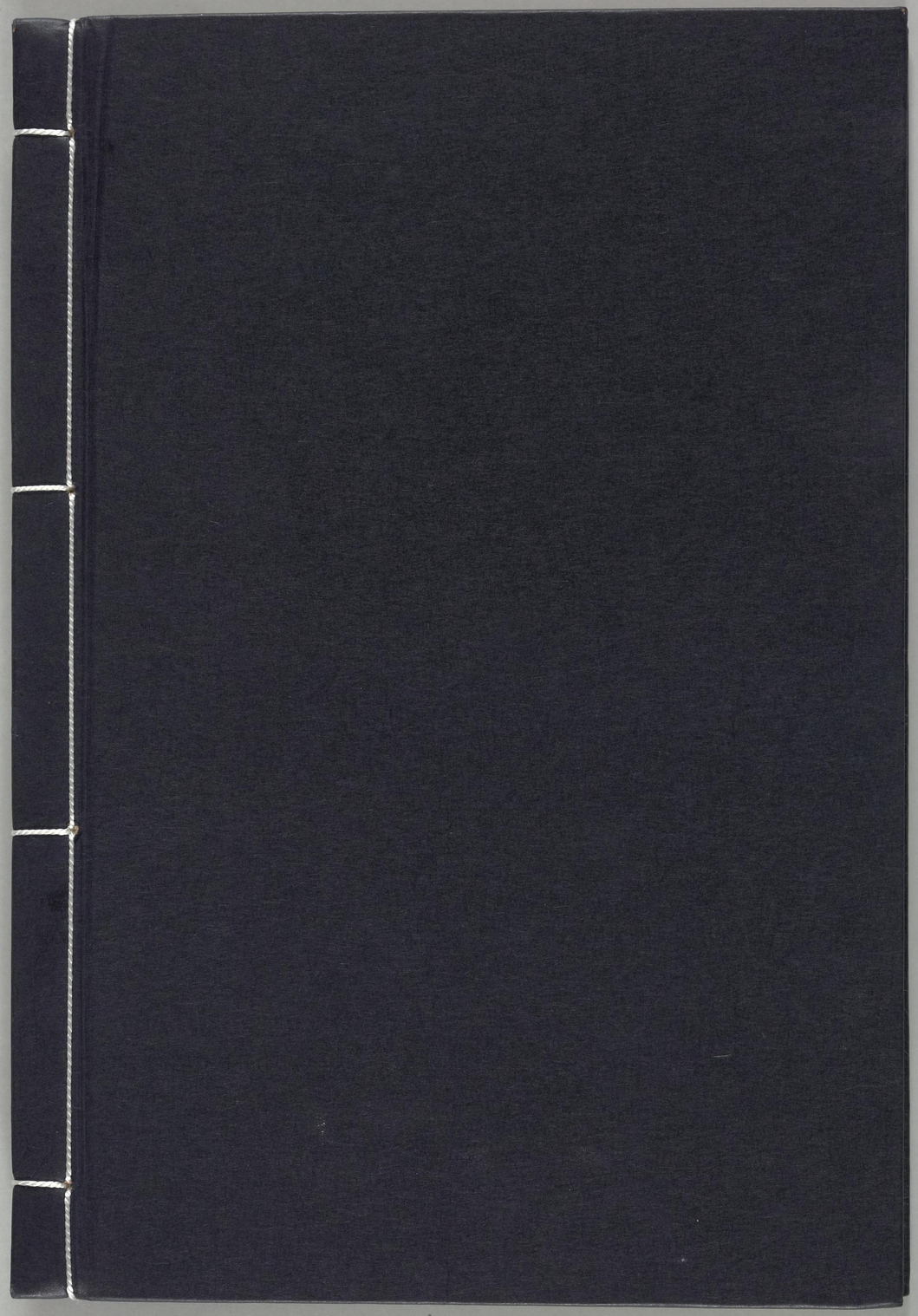
国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4

別20
4
9

国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4



国立国会図書館　［日本城郭史資料］第9冊　本別20-4